高校生の観光事業構想コンテスト

観光甲子園 NEXT TOURISM CONTEST 2022

SDGs修学旅行部門

＜準決勝事業企画書＞

タイトル

タイトル 10～20文字	江田島の未来へつなぐ3R

サブタイトル 20～30文字	Reconsider：SDGs再考 Reborn：空き家・海ゴミ再生 Regional exchange：地域交流

チーム情報

都道府県	広島県
高等学校名	広島女学院高等学校
チーム名	ペンタゴン
担当教職員名	安宅弘展

メンバー名	学年	性別	氏　名	担　当	代表
メンバー①	1	女	田邊里彩	アポ取り	○
メンバー②	1	女	神辺菜花	問題提起	
メンバー③	1	女	有田波和	調査	
メンバー④	1	女	永渕桜	取材	
メンバー⑤	1	女	石田優奈	記録	

※ 1チームのメンバーは3～5名
※ 担当欄にはチームにおける担当業務（企画、調査、取材等）を記入
※ 代表欄にチーム代表者1名に「○」を入れる

①江田島の現状と課題

江田島は日本の課題が凝縮された街である。この街で課題を解決することによって他の街でも応用させることができると考えた。
具体的な江田島の問題には住民の高齢化に伴う空き家の増加や特産の牡蠣から出る海ごみの問題、観光業の停滞などが挙げられる。
私たちの修学旅行プランでは、これらの問題解決に取り組む。そうすることで、旅行に参加した高校生にも成長が期待できる。

江田島が抱えている課題

①海ゴミ

牡蠣養殖で使うプラスチックや牡蠣の殻などが
海ゴミに →**海洋生物**の生態系に打撃

海ゴミ全体の約60%が、カキ養殖の副産物

②高齢化

江田島全体で進む **高齢化**

1965年　高齢化率9.5%
2015年　高齢化率41.0%
50年の間に4倍以上!?

③空き家

高齢化に伴う**空き家の増加**

6年の間に5%以上増加している！

老朽化による倒壊の危険性が高まるため、策を施す必要がある。

	2015年	2021年
空き家率	13.0%	18.3%

④観光業の停滞

収入を得られない **観光業**

江田島へ観光に来る人の多くは日帰り

魅力

【映える景色】
- 瀬戸内海が綺麗
- 朝焼け、夕焼け、多島美
- 温泉(塩温泉、ラドン温泉)

【長い歴史】
- 海軍関連資源が多い
- 神社、仏閣などの歴史、文化的資源

【自然体験】
- サイクリングルート
- マリンスポーツ
- 体験型観光の充実

【豊富な特産品】
- 柑橘・花・柿
- オリーブ
- 海鮮が新鮮

参加者の成長

デジタルデトックス

2021年、全国の高校生のスマホの平均利用時間は3時間を超えている。この修学旅行は、**一定期間スマホと距離を置くことができ、ストレスを軽減**することに繋がる。

社会人基礎力の向上

グループ別行動や、販売体験を経験することによって**前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力**が養われ、将来社会に出た際のアドバンテージとなる。

出典：空き家対策計画　https://www.city.etajima.hiroshima.jp/cms/files/uploads/akiyataisakukeikaku.pdf　　江田島市観光推進計画　https://www.city.etajima.hiroshima.jp/cms/files/uploads/15kankousinnkoukeikaku__3.pdf

②江田島の現状分析

1 **海ゴミ**
牡蠣の養殖に使われるプラスチックゴミ(まめ管)、牡蠣の殺が漂流

2. **高齢化**
高齢化と、若者の上京による人口減少

3. **空き家**
人口減少、相続問題による引き取り手のない家の増加

4. **観光業の停滞**
目玉となる観光地がなく、旅行に来たとしても滞在期間が短い

<u>海チーム</u>
主に海ゴミの現状を改善するために、海ゴミができる原因について学び、海ゴミを拾い、それをもとにアートを作る。

陸チーム
主に空き家の現状を改善するために、空き家改修の手伝い、他にも環境破壊を食い止める策を考える。

Reborn
空き家・海ゴミの再生

・空き家
→地域の人や観光客が集まれる複合型施設に

・海
→海ゴミの無いきれいな瀬戸内海に

江田島の未来に繋ぐ3R

Reconsider
SDGs再考

SDGs3
すべての人に健康と福祉を
SDGs8
働きがいも経済成長も
SDGs9
産業と技術革新の基盤を作ろう
SDGs11
住み続けられるまちづくりを
SDGs12
作る責任使う責任
SDGs14
海の豊かさを守ろう

Reginal exchange
地域交流

地域の人と交流深め、江田島へのリピーターを増やすことにつながる。

⬇

街の経済が潤う

=地域交流

・人との繋がり を広める
・価値観の理解、尊重
・課題発見解決
・社会への関心を深める
・異世代交流(経験などから継承)

出典:江田島市観光推進計画　地域感交流体験活動の成果　外務省「SDGsとは？」

③-1 陸チーム　旅程・旅費

旅程	時間	予定 Aグループ	時間	予定 Bグループ
一日目	10:00	①切串港到着	10:00	①切串港到着
	10:30	②サイクリング	10:30	⑥江田島焼き体験
	12:00	③オリーブの葉作り	12:30	④昼食
	12:30	④ 昼食	13:30	⑤オリーブの冠作り
	13:30	⑤オリーブの冠作り	15:00	③オリーブの葉作り
	15:00	⑥江田島焼き体験	15:30	②サイクリング
	17:00	⑦民宿に移動→夕食 自由	17:00	⑦民宿に移動→夕食 自由
二日目	9:00	⑧海軍カレー調理	9:00	⑧海軍カレー調理
	10:00	⑨空き家現状学習	10:00	⑬畑を耕す
	11:00	⑩空き家デザイン考案	11:30	⑭オリーブを植える
	12:00	⑪昼食	12:00	⑪昼食
	13:00	⑫空き家改修参加	13:00	⑨空き家現状学習
	15:00	⑬畑を耕す	14:00	⑩空き家デザイン考案
	16:30	⑭オリーブを植える	15:00	⑫空き家改修参加
	17:00	⑮解散 民泊で交流	17:00	⑮解散 民泊で交流
三日目	10:00	⑯陸チームとの交流		
	11:00	⑰ワークショップ午前		
	13:00	⑱昼食		
	14:00	⑲ワークショップ午後		
	16:30	⑳中町港出発		

①広島港～フェリーで30分　②海の景色を眺めながら江田島を堪能！
③ハートの葉っぱを見つけられたらラッキー　④オリーブ料理を満喫
⑤フィギュアスケートのオリーブ冠をお手本に
⑥江田島ならではの思い出を･･･　⑦3日間お世話になる家族にご挨拶
⑧旧日本海軍の兵食作りを体験　⑨空き家　⑩将来を見据えて･･･
⑪作ったカレーを民泊の方をお呼びして一緒に！
⑫いざ実践★　⑬農業体験⑭未来の修学旅行生のために！
⑮民泊の家族と仲良くなろう　⑯2日間で学んだことを共有
⑰陸チームが作ったオリーブの冠を販売
⑱江田島での最後の食事　⑲海チームが作った海ゴミアートを販売
⑳今までお世話になった方々に挨拶をしてお別れ

旅費（一人当たり）		講師代	¥2,000
江田島焼き	¥2,800	オリーブの苗	¥200
空き家の改修	¥1,000	フェリー行き（往復）	¥510×2
一日目ランチ	¥1,650	民泊	¥10,000
バス	¥2,700	合計	＊¥36,470

＊他の金額も含めた総合の金額

出典：広島県江田島市市役所HP　ウチコト　沖山工房HP

③-2 海チーム　旅程・旅費

旅程	時間	予定 Aグループ	時間	予定 Bグループ	時間	予定 Cグループ
一日目	10:00	①中町港到着	10:00	①中町港到着	10:00	①中町港到着
	10:30	②海水浴	10:30	⑤ゴミ拾い	10:30	④海ゴミアート説明
	12:00	③BBQ	11:30	③BBQ	11:00	③BBQ
	13:30	④海ゴミアート説明	13:00	④海ゴミアート説明	12:30	⑤ゴミ拾い
	14:00	⑤ゴミ拾い	13:30	⑥海ゴミアート制作	13:30	②海水浴
	15:00	⑥海ゴミアート制作	15:30	②海水浴	15:00	⑥海ゴミアート制作
	17:00	⑦解散 民泊で交流	17:00	⑦解散 民泊で交流	17:00	⑦解散 民泊で交流
二日目	9:00	⑧各民宿で海軍カレー作り				
	10:30	⑨山岡水産さんでお話を聞く				
	11:30	⑩牡蠣の殻の再利用の方法を学ぶ				
	12:00	⑪昼食				
	13:00	⑫牡蠣殻肥料作り				
	15:00	⑬海ゴミアート制作part2				
	17:00	⑭民泊に移動 民泊の方との交流　夕食 自由				
三日目	10:00	⑮陸チームとの交流			10:00	⑮陸チームとの交流
	11:00	⑯ワークショップ午前			11:00	⑯ワークショップ午前
	13:00	⑰昼食			13:00	⑰昼食
	14:00	⑱ワークショップ午後			14:00	⑱ワークショップ午後
	16:30	⑲中町港出発			16:30	⑲切串港出発

①広島港～フェリーで30分
②江田島の海を満喫SUP,バナナボートなど
③江田島の野菜やお肉を堪能
④海ゴミの現状なども教えていただきます
⑤アートの材料集め兼海岸の掃除
⑥創造力を働かせてチャレンジ
⑦3日間お世話になる家族にご挨拶
⑧旧日本海軍の兵食作りを体験
⑨牡蠣の生産・ゴミが出る理由を教えていただきます
⑩肥料になること、効果などを教えていただきます
⑪作ったカレーを民泊の方をお呼びして一緒に！
⑫殻を砕くことを一から始めます
⑬一日目に作り始めたアートを完成！
⑭民泊の家族と仲良くなろう
⑮今までの学び・体験を共有しよう
⑯海チームが作った海ゴミアートを販売
⑰江田島で最後の食事
⑱陸チームが作ったオリーブ冠を販売

海ゴミアート

＊他の代金も含めての総合金額

旅費（一人当たり）		民泊 二泊三日	¥10,000	フェリー（往復）	¥690 ×2	講師代	¥200
海水浴	¥7000	バス	¥2700	海ゴミアート作り	¥1000	合計	¥22,380

出典：山岡水産HP　海の家Three Shell HP　東京新聞

④プランを裏付ける実際の成功事例

私達の考えたプランに似た事例を挙げる。
実際に成功した日本各地のプランを江田島でも同様に行うことによって、このプランの効果が期待される。

①海ゴミ

”海ごみゼロウィーク”
2021年全国440箇所で15万人以上が参加
5/30 ごみゼロの日
6/5　環境の日
6/8　世界海洋デー
年々参加者は増加傾向
　→海ゴミに対する意識が高まっている

②高齢化

沖縄県奄美大島
＜目標＞
・地域の伝統的建築、伝説　的なストーリーを知る
・宿泊施設の不足解消
・空き家対策
・リピーターの増加
・地元の人との関わり

地域住民主体の観光事業を展開し、現在計画進行中

＊コロナウイルスによる民泊観光の停滞が懸念

＜今後の課題＞
・コロナウイルスによって　停滞した観光の復興
・人の流れを生み出す施策　を作る
・宿泊施設ごとの形態によ　る旅行者数の偏りを解消

③空き家

兵庫県丹波篠山市
　(株)NOTEリノベーション＆デザインを設立
→篠山地区の 古民家を一体的に改修
　起業家や事業者を誘致
　多くのホテル、レストラン、カフェ、工房などが立ち並ぶ魅力的な城下町等の街並みを実現。

モダンに改修された古民家ホテル「NIPPONIA」

篠山城下町の歴史的街並み

④観光業の停滞

四国圏
四国の魅力
　1200年以上続く「四国遍路」、海・山・川など豊かな自然、土地の人々の温かな「おもてなしの心」に触れることを通して、癒しを実現できる場所
そこで…
外国人観光客に
目を向けた！

2013年から2014年にかけて観光客数が28%増加

自然・歴史を生かした
魅力ある観光地域つくり
・道の駅　機能強化
・美しい街道作り
・クルーズ船による観光

出典:①海ごみゼロウィーク2022　環境省　②奄美群島成長戦略プロジェクト推進会議　③四国犬広域地方計画　④内閣官房歴史的資源を活用した観光まちづくり連携推進チーム

⑤海チーム：ミッションA　海ゴミを、資源に変えよう！

牡蠣養殖の際に出るプラスチックなどのゴミ・牡蠣の殻を再利用し、資源として販売・活用する

① 海ゴミ

特産のカキ養殖と海ゴミ問題A：

ー養殖用の**プラスチック**器具が海に流出ー

→プラスチックのパイプなどが海に流れ出る

マイクロプラスチック化→回収が難しい

・周辺の生態系を破壊・景観が良くない

・整備が追いつかない

特産のカキ養殖と海ゴミ問題B：

ー収穫後に出る大量の貝殻ー

→牡蠣の養殖には、ホタテの貝殻が大量に使用される

→収穫後に貝殻がゴミになってしまうため、**廃棄しなければならない。→再利用出来ないか？**

ー部のホタテは次の養殖に再利用

牡蠣の殻は処分に困っている

1日目

海ゴミアートに挑戦：

海ゴミを再利用し、海ゴミアートを作成

→海岸で、プラスチックゴミなどを回収

→どんなごみがあるのかを学ぶ

→ゴミを用いてアートを作る

→ふるさと納税の返礼品として販売

2日目

牡蠣の殻を肥料に：

牡蠣の殻を砕いて肥料にする

水産で処理に困っている貝殻をもらう

→カルシウムが豊富な殻を、塩抜き後砕いて肥料にし、　オリーブを植える際に肥料として使う

効果

海洋生物の生態系を守る：

海ゴミを集める

→・海ゴミの現状を知ることができる

・どんな種類があるのかを学び、SDGsについて学ぶことができる。

・環境破壊を防ぐことに繋がる。

牡蠣の殻を肥料にする

→・ゴミを減らすことができる

・SDGs作る責任・使う責任

・化学肥料を使っていないため、安全な植物を育てることができる。

出典:マイクロプラスチックが環境や人体に与える影響と対策について解説　朝日新聞デジタル　SDGs 169ターゲットアイコン　日本版制作プロジェクト

⑤陸・海チーム：ミッションB
世代を超えた繋がりを持とう！

①高齢者

高齢化が進む：

経済の生産性が低下する。
→高齢者は働くことが困難である。
孤独を覚える人が多い。
→日常生活に楽しさを感じなくなる。

2泊3日

民泊でスローライフを体験：

民泊に2泊3日滞在して地域の人との交流を深める。
→江田島の魅力であるスローライフを体験
→コミュニケーションをたくさん取る
→民泊の方から江田島の歴史についての話を聞く
→デジタルデトックス

効果

・世代が違う人との交流を持つことができる。
→多様な価値観とのふれあい。
・高齢者の認知症予防
・高齢者の安定した収入源になる
・リピーターを増やすことができる。

⑤陸チーム：ミッションC
空き家を再び活気溢れる場所に

①空き家

高齢化、若者の上京で空き家が増加：

倒壊の危険性が高く、危険である。
→土地を活かし、別の建物を再建
街の人たちが集まる場所がない
地元産品を食べる・買える場所が少ない
→空き家を活用し、ショップやイベントを行う

2日目

空き家の回収を手伝う：

壁の塗装、建築モデルの考案を行い、空き家に愛着を持たせる。
→空き家改修をしていくステップを学ぶ
→アイデアを出し合い空き家の活用方法を考える

効果

・グループの中で活動することで社会人基礎力が養われる。
・地域の人と交流が深まる。
・地域の安全を守ることができる。
・観光発信拠点ができる

出典：朝日新聞デジタル　SDGs 169ターゲットアイコン　日本版制作プロジェクト

⑤海・陸チーム：ミッションD　観光関係産業の強化

牡蠣養殖の際に出るプラスチックなどのゴミ・牡蠣の殻を再利用し、資源として販売・活用する

① 観光業

観光業の衰微：

十分な収入を得ることができない
→山岡水産の方は、牡蠣打ち体験のための施設がほしく、市役所にも相談してみたが、財政の問題もあり実現できていないと話されていた

魅力が伝わらない：

グラフからわかるように、江田島以外の地域の人に、江田島についてを知ってもらえてないため、特に広島県以外からの観光客数に伸び悩んでいる

観光客の8割が広島県民

隣接する都市圏に江田島の魅力が知られていない

2日目

リピーターを増やす：

・空き家の改修の手伝いをする
・空き家の畑にオリーブの樹を植える
・民泊の方と親密な関係を築く

全日

江田島を知る

・江田島の豊富な自然を活かした食・アクティビティ・産業を体験
・空き家や海ゴミの現状を学び、改善するためにできることを実行

江田島を広める：

・ワークショップや修学旅行生の地元で海ゴミアート、オリーブを販売、ふるさと納税では返礼品とし利用

効果

・完成した空き家を見たり、お世話になった地域の人に会いにいくためにもう一度訪れたいと思う人を増やす
→他県からの観光客増加
・観光収入の増加
→その資金を道の駅等、観光の拠点となる施設を作るなど観光業の発達のために使える

・修学旅行生自身が全身で、江田島の魅力、負の側面の両方を感じることで江田島について深く理解する
・他の県の人に、江田島の特産品や江田島について知ってもらうことができる
・学校内で学年を超えた繋がりが生まれる

出典：第一山陽小野田市総合計画策定義務　SDGs 169ターゲットアイコン　日本版制作プロジェクト

⑥まとめ

空き家の改修
空き家をリフォームすることによって土地の有効活用・街の活性化

海ゴミの再生
牡蠣の殻、プラスチックゴミを回収し、海を綺麗にする

観光業の復興
高校生のリピーターを増やす

販売体験
地域の人との交流、経済の活性化につながる

植樹
生態系の保全・平和の象徴

民泊
世代を超えたつながりを作る

伝統の継承
江田島焼きを受け継ぐ

農業体験
農業の担い手不足を解消する

旅行参加者の成長

デジタルデトックス
スマートフォンに触れる機会を減らすことで、人と関わる時間が増える。

社会人基礎力の向上
前に踏み出す力、
考え抜く力、
チームで働く力
が身につき、
社会に出た際役に立つ。

NOスマホ
旅行中はスマホを持っていかない

出典：朝日新聞デジタル　SDGs 169ターゲットアイコン　日本版制作プロジェクト